

愛宕山、麻布台、三田一丁目界限

2010年6月2日

この散歩案内はすでに10年近く前のものです。これをあえて載せるのは、街がその後どう変わったのかを確認しながら歩くのも面白いだろうと思ったからです。当時再開発の波を受けあちらこちらで昭和の街並みが消えつつあった。愛宕山裏、麻布台一丁目、三田一丁目もそうしたところでした。人の姿が消えつつあり巨大な資本の力によって町が丸ごと高層ビルに押しつぶされようとしていました。この様子を町に住む住民の目線で眺め歩いてみました。さて今、再び歩くとどんな印象をもつだろう。

地図 A-1 平成はじめ



地図 A-2 江戸末期



《江戸末期の地図の色区分》

白 色：大名屋敷、旗本上級武士の屋敷

紫 色：中・下級武士の組屋敷

グレイ：町人町

ピンク：寺社

まず江戸末期の地図をみて質問

- 0) 桜田門外の変で、井伊直弼は水戸藩浪士に襲撃されたが、井伊直弼はなぜ桜田門から登城したのか。
- 1) 霞ヶ関官庁街や日比谷公園は、もとはどこの大名家の屋敷だったのか。
- 2) 現在の日比谷公園の一角には江戸時代に「桜田御用屋敷」があったが、これはいったいどんな屋敷なのか。
- 3) 現在の六本木一丁目や麻布台一丁目あたりには、江戸時代に「与力同心大縄地」が点在している（紫色）。
「大縄地」とは？ この辺りの大縄地の与力同心の職業は？
- 4) 江戸時代の都市・江戸の人口は、武士が半分を占めていたといわれている。
なぜこんなに武士が多かったのだろうか。
- 5) この武士の居住区に寺社の土地を加えると江戸の圧倒的部分を占め、町人にはわずかに 15%ほどが割り当てられていたが、町人が住んでいたのはどんなところだろうか。

大名屋敷

上屋敷：藩主とその家族の居所。

道を隔てて「向屋敷」をもつこともあった

（地図 A-2 の広島藩、佐賀藩）

登城の便から江戸城の周辺に配置され、藩役所の機能ももった。

下屋敷：隠居所または世継ぎの居所。

また上屋敷の修理や被災の際の避難所。多くは郊外にあり、

別荘や庭園として使われた。

中屋敷：大藩が持ち、参勤交代の家臣の宿舎などに当てられた。

水戸徳川藩の場合、上屋敷は水道橋の後楽園、中屋敷は向ヶ丘
（現 東大農学部あたり）、下屋敷は向島の隅田川沿い（現 隅田公園の墨田区側）
にあった。

現在の霞ヶ関には、安芸広島藩（浅野）42 万石、筑前福岡藩（黒田）
52 万石、米沢藩（上杉）18 万石、その他小藩の上屋敷があった。
現在の日比谷公園には、長州藩 37 万石、肥前 鍋島藩 36 万石と
その他の小藩の上屋敷があった。

御用屋敷

御庭番の屋敷。御庭番とは八代将軍徳川吉宗が創設した公儀隠密の
事である。吉宗は御三家の紀伊家から入り、生まれながらの将軍では
なかった。このためそれまでの隠密を信用出来ず、和歌山から連れて
きた藪田助八を棟梁分として任命し、17 家を御庭番とした。

通常は桜田御用屋敷・虎ノ門外御用屋敷・雉子橋門内御用屋敷
清水門外御用屋敷に分かれて住んでいた。（地図 A-2）

武家屋敷

旗 本：旗本は徳川氏の三河以来の家臣から成る。武家以外にも儒者、
医師、碁所、歌学方など技芸をもって召し出された者もあった。
旗本の人数は享保 7 年（1722）に 5,205 人、そのうち
100 石～ 500 石以下の者が約 60%を占めていた。

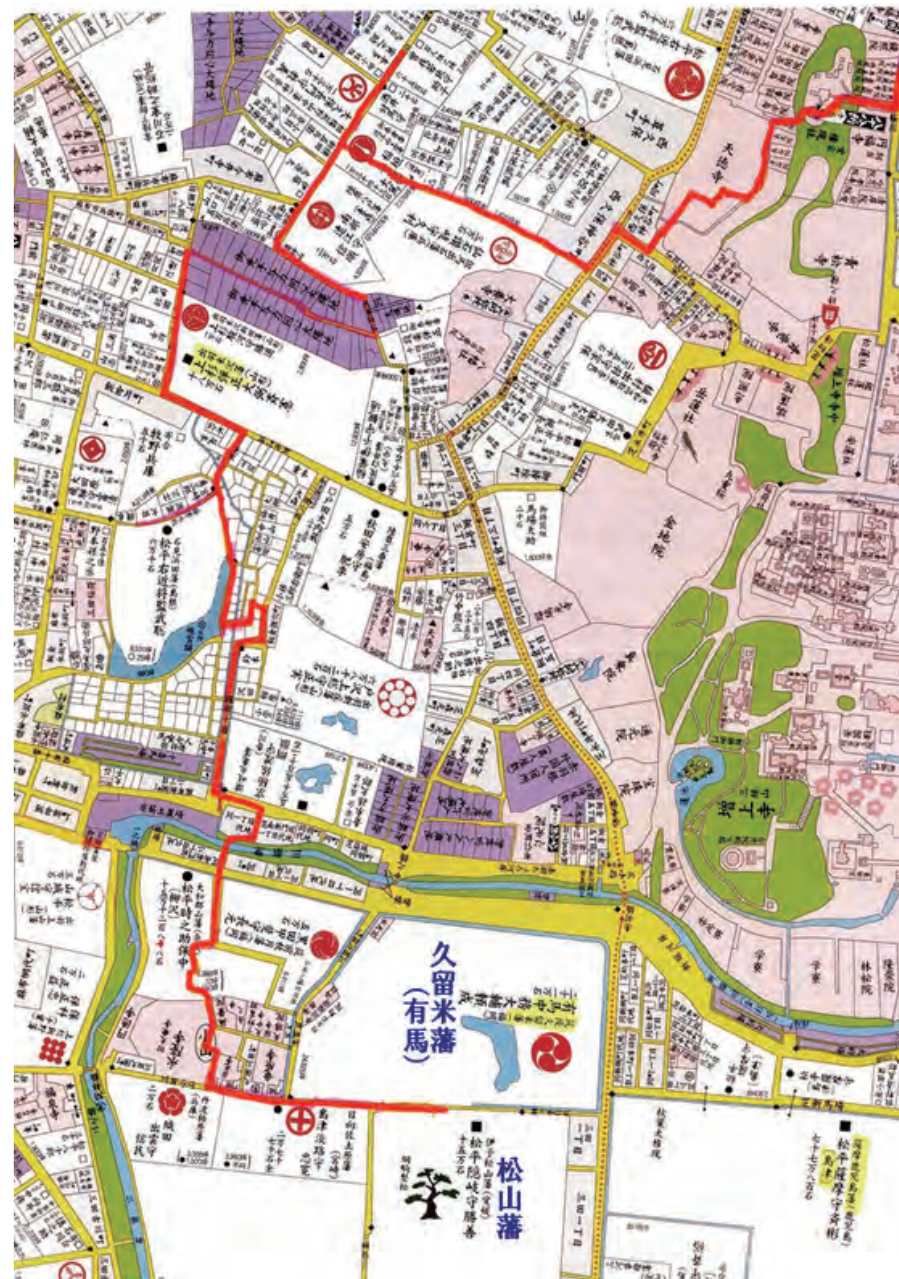
御家人：与力・同心などを務めた者の子孫。享保 7 年（1722）に御家人
の人数は 17,390 人で、禄高最高は 240 石で総じて貧乏御家人
が多い。一般に御家人は貧しかったが拝領屋敷には余裕が
あったため、町人などに賃貸し園芸などの内職に利用した。

大縄地：中・下級武士の宅地は職務上、同じ組に属する者が
まとまって屋敷地を与えられたが、これは土地を一括する
ことから大縄地・大縄屋敷といわれた。
官舎のようなもの（地図 B-2）。

地図 B 1



地図 B 2



【散歩のコース】

桜田門 ⇒ 愛宕山 ⇒ 愛宕山裏の昭和の街並み ⇒ 神谷町
⇒ スウェーデン大使館、スペイン大使館の周辺
⇒ 麻布台一丁目の我善坊谷（地上げされた街）⇒ 狸穴 ⇒ 鼠坂
⇒ 麻布十番 ⇒ 三田一丁目の再開発で間もなく壊される昭和の街並み
⇒ オーストラリア大使館、三井クラブ

【コースの説明】

愛宕山下

愛宕山を神谷町方面に降りると、山の下に戦前に建てられた家々が並ぶ町がある。人の気配のない家もあり、ほどなく消える運命にあると思われる。



愛宕山下にある家々

我善坊坂と我善坊谷

六本木一丁目から麻布台一丁目に下る坂を「我善坊坂」といい、坂を下りた谷あい「我善坊谷」といった（地図 B1 の黄色に塗られたところ）。江戸末期の地図では、ここは「御先手与力同心大縄地」となっていて、組屋敷があったところ。この近くの大縄地には、火付盗賊改めの与力同心の組み屋敷もあり、池波正太郎の「鬼平犯科帳」にも登場する。御先手与力同心大縄地があった我善坊谷（麻布台一丁目）の一角は、戦後は中流中産層の住宅地区だった。しかし住宅の多くが森ビルによって地上げされ、長期に放置されたままになっている。まさにゴーストタウンだ。



狸穴（まみあな）坂

ロシア大使館横の坂が狸穴坂で、麻布十番方面に下りていく。狸をなぜ「まみ」と読むのかについては、谷間に「魔魅がでる」とのうわさがあったからとの説があるが定かではない。いずれにしろ狸がでるようなところだったのだろう。平岩弓枝の「御宿かわせみ」では、主人公東吾の通う道場がこの狸穴にあった。江戸城の北も南も坂が多く、それぞれに名前がついている。港区では坂のそば口に柱を立て坂の名前とその由来が記されている。三組坂、鼠坂、植木坂、榎坂、雁木坂など。



三田小山町

マンション街が続く一角、三田小山町（現在の三田一丁目の西部）には、「ここが三田？」と思わせる、「三丁目の夕日」のような懐かしい匂いのする街並みが残っている。しかし、この一帯にも開発の波は押し寄せている（地図 B1 の黄色の部分）。



三田小山町（現在の三田一丁目の西部の街並みと銭湯）

三田小山町地区市街地再開発組合の設立認可について

平成 17 年 11 月 8 日 都市整備局

東京都は、都市再開発法第 11 条第 1 項の規定に基づき、
三田小山町地区市街地再開発組合の設立を下記のとおり
認可しますのでお知らせします。

1 認可組合（施行者）の名称及び所在地

三田小山町地区市街地再開発組合 港区麻布十番四丁目 1 番 7 号

2 事業の名称 三田小山町地区第一種市街地再開発事業

3 施行区域 東京都 港区三田一丁目各地内

4 認可の効果 組合設立認可により法人格を得て市街地
再開発事業の施行者となり事業に着手する。

今後の予定 権利変換計画認可 平成 18 年 3 月予定

工事着工 平成 18 年 10 月予定

建築竣工 平成 21 年 3 月末予定

5 事業効果 本地区は震災・戦災も免れ、古くから良好なコミュニティを
培ってきた地区である。都営地下鉄大江戸線、東京メトロ南北線の
駅開業に伴い大幅に改善された立地条件を活かし、コミュニティの
継承と地域根ざした事務所・店舗・工場との共存を目指す。
土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を進め、
安全性と利便性の高い、快適で魅力ある複合住宅市街地を形成する
ことを目的として事業を行うものである。

6 認可日 平成 17 年 11 月 8 日

7 地区の概要 (1) 地区面積 約 1.1 ヘクタール

(2) 計画概要

規模 延床面積 約 65,200 平方メートル

地上 36 階 地下 1 階 高さ約 128.5 メートル

用途 住宅（約 510 戸）・事務所・店舗・工場・駐車場等

総事業費 約 245 億円